

フリーチョイス

## 秋田県を調べよう

発展

解答

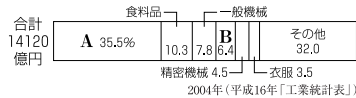
組

番 名 前

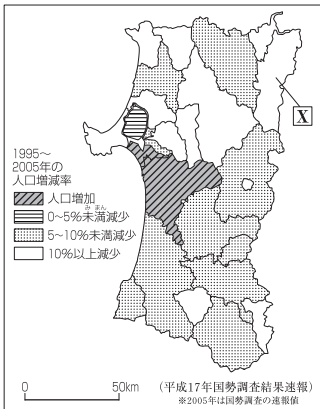
## ① 秋田県の産業と人口 ★秋田県の産業の特色や人口分布のようすがわかりますか。

次の資料を見て、あとの各問いに答えなさい。

資料1 秋田県の工業製品出荷額割合



資料2 秋田県の市町村別人口増減率



- (1) 資料1のAとBの工業製品を、次からそれぞれ選びなさい。☑B秋田すきは有名。
- 〔化学 電子部品 木材・木製品  
鉄鋼 情報通信 輸送用機器〕
- (2) (1)のAに関連して、秋田県には、IC工場が進出してきている。IC工場は、どのような場所に立地しているか。秋田県の高速度交通網の整備の面から、簡潔に書きなさい。☑ICは小型で高価。
- (3) 資料2のX市にある、かつての銅山を利用した観光施設を、何とといいますか。☑X市は鹿角市で尾去沢銅山があった。
- (4) 資料2の人口が増加している市町村すべてに〇をかきなさい。☑秋田市と湯上市のみ。
- (5) 資料2から、秋田県の人口増減の傾向を、簡潔に書きなさい。

## ② スキルUP 作図&amp;文章記述にチャレンジ ★秋田県の農業の特色がわかり、農業生産額割合を作図できますか。

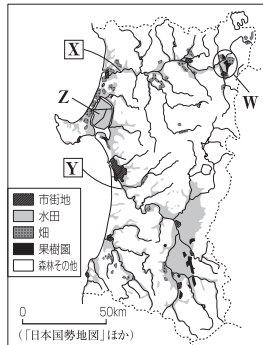
秋田県の農業の特色 右の資料を見て、次の各問いに答えなさい。

資料1 秋田県の農業生産額割合(%)

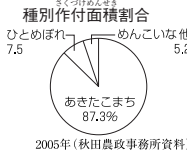
|   | 米  | 畜産 | 野菜 | 果実 | その他 |
|---|----|----|----|----|-----|
| A | 80 | 7  | 5  | 3  | 5   |
| B | 59 | 16 | 15 | 4  | 6   |
| C | 68 | 16 | 7  | 4  | 5   |

※A～Cは1900年、1980年、2004年のいずれかを表す。  
(「第80次農林水産省統計表」ほか)

資料2 秋田県の土地利用



資料3 秋田県の稲の品種別作付面積割合



- (1) 資料1のA～Cの割合を、この農産物の順に、解答らんぐらフに表しなさい。
- (2) 資料1のA～Cを、年代の古い順に左から書きなさい。☑米の割合の変化に着目。
- (3) (2)のように考えた理由を、1970年ごろから始まった、政府の減反政策の面から書きなさい。
- (4) 資料2のX川、Y川の下流域に広がる平野を、それぞれ何とといいますか。☑米代川と雄物川。
- (5) 資料2のZの村を何とといいますか。
- (6) 資料2のWの地域で生産がさかんな果実を、次から一つ選びなさい。〔りんご 日本なし ぶどう みかん〕
- (7) 資料2を見て、耕地の多くは何に利用されていますか。
- (8) 資料3を見て、「あきたこまち」が多く作付されている理由を、消費者の面から簡潔に書きなさい。

## ① 6点×5 (5)は7点

| 番号 | 内容                       |
|----|--------------------------|
| 1  | A 電子部品                   |
| 2  | B 木材・木製品                 |
| 3  | (例)空港や高速道路の近く。           |
| 4  | マインランド尾去沢                |
| 5  | (左の資料2にかく)               |
| 6  | (例)人口が減少している市町村が、圧倒的に多い。 |

(採点基準) (5)「中心部以外は減少」など同意文可。

## ② 7点×9 (5)は7点

| 番号 | 内容                   |
|----|----------------------|
| 1  | 米 59%                |
| 2  | ア → ウ → イ            |
| 3  | (例)転作地や休耕地           |
| 4  | X川 能代平野<br>Y川 秋田平野   |
| 5  | 大湯村                  |
| 6  | りんご                  |
| 7  | 水田                   |
| 8  | (例)消費者のブランド米指向が強いから。 |

## スッギリ解決!

- ① (1)A、(2) ICは小型で軽量な割に高価なので、運賃の高い航空機や、高速道路で運んでも採算がとれる。
- (3) 尾去沢銅山が廃鉱したのち、その坑道や施設を利用した。
- (5) 秋田県全体が、人口減少に悩んでいる。特に山間部の町村では、過疎化が進んでいる。

## これもマル ① (2)

(例)新幹線や空港、インターチェンジ付近。

- ② (2)3 戦後、日本人の生活はしだいに洋風化し、米ばなれが進み、1960年代後半から、米が余るようになった。
- (4) 米代川沿いの能代平野、雄物川沿いの秋田平野や横手盆地は、稲作地域である。
- (5) 八郎潟を干拓して、稲作を行うためにつくられた村だが、政府の米の減反政策で、目的どおりにはいかなかった。
- (6) Wは花輪盆地。
- (7) 「耕地」は水田、畑、果樹園。

## これもマル ② (3)

(例)米の生産調整によって、田を野菜づくりに転作した。

## これもマル ② (8)

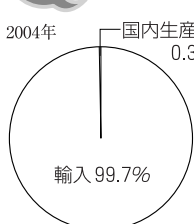
(例)消費者のニーズに対応するため。

## 作図をマスター!

答えはおもて面にあるよ!

しっかりCheck! の答え

下の円グラフは、日本の原油の輸入割合と、国内生産割合を示したものである。

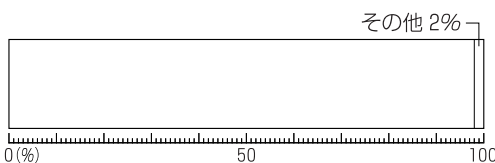


(2006/07年「日本国勢図会」)

また、右上の表は、円グラフの0.3%にあたる国内生産量の、道県別生産割合を示したものである。表をもとに、原油の国内生産割合を、右下の帯グラフにかき入れ、帯グラフを完成させなさい。

原油の国内生産量とその割合

| 道県  | 割合  |
|-----|-----|
| 新潟  | 58% |
| 北海道 | 27% |
| 秋田  | 13% |
| その他 | 2%  |

※割合(%)は小数第1位を四捨五入してある。  
2004年(2006/07年「日本国勢図会」)

①秋田すぎ(すぎ)

②秋田自動車道

③八郎潟

④かまくら

⑤コンテナ船